

Brush Up Letter

神戸大学医学部附属病院

D&N plus ブラッシュアップセンター

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2 TEL 078-382-5266
E-mail: brushup@med.kobe-u.ac.jp http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/dn/

2013年11月～2014年1月の主な活動

全体		
12月	17日	ワークライフバランスセミナー (男女共同参画講義)
医師		
11月	1日	育児・介護復職者支援 短時間勤務医員 2014年4月採用者公募
	8・29日	大リーガー医プロジェクト 医学教育編 収録
	20～22日	大リーガー医プロジェクト 総合内科編 収録
	29日	近畿近隣大学交流会 参加
	全7日	研修医ミーティング 収録
12月	17日	第3回 ママドクカフェ
	全7日	研修医ミーティング 収録
1月	24日	大リーガー医プロジェクト Family Medicine編 収録
	全8日	研修医ミーティング 収録
看護師		
11月	30日	キャリアカフェ 開催
1月	29・31日	復帰前研修

2014年2月～3月の主な予定

全体		
2月	未定	第2回 運営委員会
3月	下旬	地域医療活性化センターへ 事務室移転
医師		
2月	1日	センター長による 神緑会総会での講演
	3-7日	大リーガー医プロジェクト 感染症科編 収録
	全6日	研修医ミーティング 収録
3月	全6日	研修医ミーティング 収録
看護師		
2月	2日	神戸REEDプランフォーラム
	10日	復帰前研修

[11/30] 看護師 キャリアカフェ 開催



平成25年度第2回キャリアカフェ「ナースな生き方はひとつじゃない」を開催いたしました。(主催:当病院看護部 看護実践・教育開発センター 共催:ママナース会、当センター)

ゲストスピーカーによる講演、その後前後半20分ずつのグループワークを実施しました。2人のゲストスピーカーは看護師長、副看護師長。講演では産休育休の取得期間の悩みや、その期間中におきたい事、小学校に就学する前に子どもと確認しておきたい事、その工夫、有効な手だて等を具体的にお話しくださいました。

キャリアアップの転機となったのは、ロールモデルとなる先輩看護師がいた事や自分の看護観を知る上司の言葉を逃さずキャッチできたことがポイントになったようでした。

また復帰前後の家族との話し合い、特に復帰後の話し合いが有効である事や家族(実家、夫の両親を含む)の職業に対する理解が非常に重要である事もお話の中で来ていました。

復帰するにあたっての事前準備として、保育所は育児休業中に見学に行っておくこと、病気になった時の対応は万全にしておくこと、小学校入学前には親より遅い登校時間、鍵の問題や学童保育所の開所時間等の諸問題も出てくるとのこと、事前に備えなければいけないことをリストアップしておくことも必要なのではないかと感じながら講演を聞いていました。

夜勤への対応としては、当直は夫が日勤の時や次の日が休みのときに勤務日程をすり合わせて調整する等、家族間で出来る事は行っておられること、また突発的な時の対処の手だてにご近所とお付き合いに細やかな工夫をされている様子が伝わってきました。近隣の方、家族、職場を含む周りの方に感謝しながら働くことが大切なことも教えて頂きました。

グループワークでは、20分間ずつの時間が短く思う程、復帰前、小学校就学前、復帰部署、短時間勤務利用についてのそれぞれの悩みや不安を話すことができたのではないのでしょうか。

今回のこのキャリアカフェを起点に多くの方が悩みを一人で抱えることなく、仕事に育児に自分らしく向き合ってもらえたらと思っています。

[11/29] 近畿近隣大学交流会参加報告

11月29日、男女共同参画推進のための近畿近隣大学交流会に参加いたしました。

交流会参加校は近隣の医科大学4大学4部署と神戸大学医学部1部署の5大学5部署。それぞれの大学が、現状の女性医師研究者への支援内容を説明し意見交換致しました。



ワークライフバランスセミナー開催

12月17日(火)第1回神戸大学医学部医学科4年生対象「ワークライフバランスセミナー」が開催されました。103名の医学科4年生が終日「ワークライフバランスについて」を自分たちの問題として考えながらの授業です。午前中は授業の概要、グループワークの説明の後、13のグループに分かれて討議し、午後は一般公開の講座となりました。

グループ討論はケース0～3があり、「0:上司が部下より妊娠報告を受けた場合」「1:朝出勤前の子どもの発熱」「2:実家が遠方にあり家族の支援が得にくいなかで後期研修先の選択について」「3:妻の1年間の海外留学について」の4つのケース。子どもがいるとどれも普通の生活の中で起こりそうな問題を、問題点とその解決法についてパワーポイント1枚にまとめ、午後から一般公開する講座で発表をしました。またケース0はロールプレイをステージ上で行うという一寸ハードルの高いものでした。役になりきり、部下の妊娠報告をどう受け止めるのか、職場スタッフの配慮と理解をどう得るか等細かく練った内容となりました。ロールプレイ以外のケースも熱心に討議しそれぞれの立場を考えつつベビーシッター、病児保育利用について具体的に調べ体制を整えておく事などまだ遠い未来に対するイメージをまとめた発表となりました。それぞれの発表に対し、先輩医師から現状の厳しさや、その工夫等を具体的に話して頂き、一人一人がその立場で、その時その時一生懸命考える事が大切だという事でした。ただ、このライ



イベントが重なる時期はがむしゃらに医師としての技術、勉強をしなければいけない時期でもあるので、パートナーに支えてもらいながら生活力を身につけていく、また子どもが好きでなくても子どもが生まれると子育てが楽しくなる、職場の環境を変えるには言い続けていく事がこれから先も必要である、というコメントが寄せられました。

先輩医師の体験談(男性医師2名、女性医師2名)や来賓講演頂いた秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 准教授 蓮沼直子先生の、仕事と家庭のバランスをとるのではなく仕事と生活の相互作用・相乗効果を取るのかということ、それぞれの子育てや家事の経験を踏まえいとも楽しく話してくださる様子は、白衣を着ている院内のご様子とは全く違った一面が見え、医師が医師としてどんなに忙しくても日々の暮らしを当たり前に親として過ごされているその工夫を感じることができたのではないのでしょうか。仕事も日常生活もどちらも日々欠く事の出来ない、どちらか1つを選びながら生活をしている訳ではない事を知る事が出来たように思います。

自分のロールモデルを見つけ、メンターは内と外(自分と違うバックグラウンドを持っている人)に持つとよく、その人を真似ながら医師として成長していくことができるというまさに今回はその機会となったように思いました。とてもポジティブな元気の出るご講演でした。ブラッシュアップセンターもセミナーの中で、当院で実施されている妊娠前から子育て期の各種支援制度等について説明する機会を頂き学生の方にも周知することができました。何かの折にセンターを訪ねてくださるのをお待ちしております。

12月17日はワークライフバランスの日

ママドクカフェ開催

同日のランチタイムには、第3回ママドクカフェ(キャリアカフェ)を開催いたしました。

講師には、ワークライフバランスセミナーでもご講演いただいた、秋田大学医学部 准教授 蓮沼直子先生をお迎えしました。蓮沼先生は、医師のワークライフバランス問題について積極的に取り組んでいらっしゃいます。

「毎日をHappyに!楽しくママとして過ごす。幸せに医師として働く」と題し、「私自身のキャリアについて」「私の子育てポリシー」「医師として、母として皆さんに伝えたいこと。シェアしたいこと」の3つについて講演してくださいました。

蓮沼先生ご自身が離職された経験があることから、「仕事を辞めないで、細くてもいいから続けてほしい。細い糸を太くすることは比較的できるけれど、一度切れてしまった糸をまた新たに紡ぎなおすことは非常に難しい。かなりペースダウンしたとしても仕事を

続けているのと辞めるのでは全然違う。」というお話がありました。当病院では「育児・介護復職者支援短時間勤務医員制度」という週20～25時間で勤務できる制度があります。フルタイムで働けないなら辞めるしかない、と思わず、是非、当センターにご相談ください。

講演後の質疑応答では、「主人にどのように家事を任せたらよいか」という質問が。「ちょっとしたことをお願いするのではなく、思い切って1泊2日の出張に出してしまうなど、責任ある家事・育児を任せてみては?」と、夫は家事・育児の「お手伝い」ではなく主体的にやるもの、という蓮沼先生のアドバイスがありました。

今回のママドクカフェも、大変有意義なものになったと好評でした。次回もたくさんの方々のご参加をお待ちしています。

